

科目名	臨床医学総論 I ①			授業の種類	講義	講師名	
授業回数	30 回	時間数	60 時間 2 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	2年 前期
【授業の目的・ねらい】 現在の医療現場では多くの医療職が関わるのが特徴である。臨床工学技士はこの「チーム医療」を担う医療職の一員として、患者の情報を共有するための医学的知識が必須である。また検査や治療により深く携わり診療の補助を担うためには疾患に対する理解が必須となる。							
【実務者経験】 臨床工学技士として姫路聖マリア病院にて、医療機器管理業務をはじめ、手術室業務・血液浄化業務・救急医療などに従事経験。							
【授業全体の内容の概要】 臨床工学技士に必要な疾患の原因と病態変化、検査、治療などについての概要を解説する。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ・原因と病態について概要を説明することができる。 ・各種検査値、疾患と治療方針についての知識を見につける。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	授業ガイダンス、単位認定の方法について理解できる						
2	「内科学総論」現代医療の特徴や病歴、症候学について理解できる						
3	「内分泌代謝疾患①」下垂体疾患、甲状腺疾患について理解できる						
4	「内分泌代謝疾患②」副甲状腺疾患、副腎疾患について理解できる						
5	「内分泌代謝疾患③」脂質異常症、骨粗しょう症、先天性代謝疾患などについて理解できる						
6	「腎臓病学①」糸球体疾患、尿細管疾患について理解できる						
7	「腎臓病学②」血管性病変、腎・尿路感染症について理解できる						
8	「腎臓病学③」慢性腎臓病、腎不全について理解できる						
9	「糖尿病①」糖尿病の病態生理、病型分類について理解できる						
10	「糖尿病②」糖尿病の診断、治療、合併症について理解できる						
11	「泌尿器病学①」腎・腎盂・尿管の腫瘍について理解できる						
12	「泌尿器病学②」膀胱がん・前立腺癌について理解できる						
13	「泌尿器病学③」尿路結石症、尿路の先天異常について理解できる						
14	「神経病学①」神経障害の症候と診断、処置について理解できる						
15	「神経病学②」おもな神経疾患について理解できる						
【使用教科書・教材・参考書】 ・臨床工学講座 臨床医学総論、篠原 一彦ほか、医歯薬出版株式会社 ・臨床工学技士標準テキスト 第3版、小野哲章ほか、金原出版株式会社							
【準備学習・時間外学習】 ・事前に教科書に目を通して講義に臨んでください ・病名、診断と治療を関連づけて覚える必要があります。十分な復習を行ってください。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として評価する 小テスト20点、中間テスト30点、定期試験50点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する							

科目名	臨床医学総論Ⅰ②			授業の種類	講義	講師名	
授業回数	30 回	時間数	60 時間 2 単位	必修・選択	必須	配当学年 時期	2年 前期
<p>【授業の目的・ねらい】 現在の医療現場では多くの医療職が関わるのが特徴である。臨床工学技士はこの「チーム医療」を担う医療職の一員として、患者の情報を共有するための医学的知識が必須である。また検査や治療により深く携わり診療の補助を担うためには疾患に対する理解が必須となる。</p>							
<p>【実務者経験】臨床工学技士として姫路聖マリア病院にて、医療機器管理業務をはじめ、手術室業務・血液浄化業務・救急医療などに従事経験。</p>							
<p>【授業全体の内容の概要】 臨床工学技士に必要な疾患の原因と病態変化、検査、治療などについての概要を解説する。</p>							
<p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ・内科系疾患の原因と病態について概要を説明することができる。 ・各種検査値、疾患と治療方針についての知識を見につける。</p>							
回数	講義内容						準備物(教材)
16	中間試験						
17	「血液病学①」造血器の構造と機能について理解できる						
18	「血液病学②」赤血球疾患について理解できる						
19	「血液病学③」白血球疾患、出血性素因について理解できる						
20	「免疫疾患総論①」アレルギーの概要について理解できる						
21	「免疫疾患総論②」免疫不全について理解できる						
22	「感染症疾患①」グラム陽性菌感染症、グラム陰性菌感染症について理解できる						
23	「感染症疾患②」細菌感染症について理解できる						
24	「感染症疾患③」真菌感染症、ウイルス感染症について理解できる						
25	眼科疾患について理解できる						
26	皮膚科疾患について理解できる						
27	女性疾患について理解できる						
28	耳鼻科疾患について理解できる						
29	緩和ケアについて理解できる						
30	まとめ						
定期筆記試験							
<p>【使用教科書・教材・参考書】 ・臨床工学講座 臨床医学総論、篠原 一彦ほか、医歯薬出版株式会社 ・臨床工学技士標準テキスト 第3版、小野哲章ほか、金原出版株式会社</p>							
<p>【準備学習・時間外学習】 ・事前に教科書に目を通して講義に臨んでください ・病名、診断と治療を関連づけて覚える必要があります。十分な復習を行ってください。</p>							
<p>【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として評価する 小テスト20点、中間テスト30点、定期試験50点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する</p>							